

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	エヌティーテクノ西工場	階数	地上2階
建設地	愛知県高浜市稗田町五丁目5番1 号	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	150 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,500 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年7月 予定	評価の実施日	2014年7月28日
敷地面積	8,985.79 m ²	作成者	渡邊純一
建築面積	4,707.64 m ²	確認日	2014年7月28日
延床面積	9,189.26 m ²	確認者	渡邊純一



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 96%

③上記+②以外の 96%

④上記+ 96%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.0

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p>40.9 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-あいち2011年度追補版Ver. エステイテック/西工機

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-あいち2011年度追補版
■評価ソフト: CASBEE-Ncb_2011 (bpi&bei)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点		重み係数
Q 建築物の環境品質								2.7	
Q1 室内環境								2.9	
1 音環境						3.4	0.15	-	3.4
1.1 騒音						3.0	0.40	-	-
1 室内騒音レベル						3.0	1.00	3.0	-
2 設備騒音対策						-	-	-	-
1.2 遮音						4.2	0.40	-	-
1 開口部遮音性能					開口部アルミ製建具 T-2	5.0	0.60	3.0	-
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	3.0	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0	-
2 温熱環境						1.6	0.35	-	1.6
2.1 室温制御						2.2	0.50	-	-
1 室温						3.0	0.38	3.0	-
2 設備変動・過渡制御性						-	-	-	-
3 外皮性能						3.0	0.25	3.0	-
4 ゾーン別制御性						1.0	0.38	-	-
5 温度・湿度制御						-	-	-	-
6 個別制御						-	-	-	-
7 時間外空調に対する配慮						-	-	-	-
8 監視システム						-	-	-	-
2.2 湿度制御						1.0	0.20	3.0	-
2.3 空調方式						1.0	0.30	3.0	-
3 光・視環境						3.1	0.25	-	3.1
3.1 屋光利用						3.6	0.30	-	-
1 屋光率					2階事務所屋光率 2.09	4.0	0.60	3.0	-
2 方位別開口						-	-	3.0	-
3 屋光利用設備						3.0	0.40	3.0	-
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	-
1 照明器具のグレア						-	-	-	-
2 屋光制御						3.0	1.00	3.0	-
3 映り込み対策						-	-	-	-
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	-
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	-
4 空気環境						4.1	0.25	-	4.1
4.1 発生源対策						5.0	0.50	-	-
1 化学汚染物質					全面にF☆☆☆☆の建材を使用	5.0	1.00	3.0	-
2 アスベスト対策						-	-	-	-
3 ダニ・カビ等						-	-	-	-
4 レジオネラ対策						-	-	-	-
4.2 換気						3.3	0.30	-	-
1 換気量						3.0	0.33	3.0	-
2 自然換気性能					2階事務所 床面積の1/15以上の開口がある	4.0	0.33	3.0	-
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	3.0	-
4 給気計画						-	-	-	-
4.3 運用管理						3.0	0.20	-	-
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50	-	-
2 喫煙の制御						3.0	0.50	-	-
Q2 サービス性能						-	0.30	-	3.7
1 機能性						3.7	0.40	-	3.7
1.1 機能性・使いやすさ						3.3	0.40	-	-
1 広さ・収納性					2階事務室 一人当たり9㎡以上	4.0	0.33	3.0	-
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33	3.0	-
3 バリアフリー計画						3.0	0.33	-	-
1.2 心理性・快適性						4.0	0.30	-	-
1 広さ感・景観					事務室の天井高さ3.0m	5.0	0.33	3.0	-
2 リフレッシュスペース						3.0	0.33	-	-
3 内装計画					建物の機能が明確。設備計画と内装計画を一体に検討している	4.0	0.33	-	-
1.3 維持管理						4.0	0.30	-	-
1 維持管理に配慮した設計					床面はウレタン系塗床としている	4.0	0.50	-	-
2 維持管理用機能の確保					工場内での出る切粉の搬出が容易に出来るように計画している	4.0	0.50	-	-
3 衛生管理業務						-	-	-	-
2 耐用性・信頼性						3.4	0.31	-	3.4
2.1 耐震・免震						3.0	0.48	-	-
1 耐震性						3.0	0.80	-	-
2 免震・制振性能						3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数						3.9	0.33	-	-
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.23	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					② 外部鉄骨部・手摺 スチール溶融亜鉛メッキ仕上 30年	5.0	0.23	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					タイルカーペット ビニルクロス 20年	5.0	0.09	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.08	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					給水: VLP、汚水排水: FDP(内部VP)を採用している	5.0	0.15	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.23	-	-

2.4 信頼性					3.6	0.19			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				4.0	0.20			
3	電気設備				4.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				4.0	0.20			
3 対応性・更新性					4.0	0.29			4.0
3.1 空間のゆとり					5.0	0.31			
1	階高のゆとり			1-2階 階高8400	5.0	0.60	3.0		
2	空間の形状・自由さ			壁長さ比 0.097	5.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり				3500N/㎡以上～4500N/㎡未満	4.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性					3.2	0.38			
1	空調配管の更新性				3.0	0.17			
2	給排水管の更新性				3.0	0.17			
3	電気配線の更新性				3.0	0.11			
4	通信配線の更新性				3.0	0.11			
5	設備機器の更新性				3.0	0.22			
6	バックアップスペース			バックアップ設備のスペースの確保	4.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.39			2.0
1 生物環境の保全と創出		●	③		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④		2.0	0.40			2.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30			3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●	④		3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-			3.1
LR1 エネルギー					-	0.40			3.3
1 建築物の熱負荷抑制				PAL* 261MJ/㎡年 基準値450MJ/㎡年	5.0	0.03			5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.28			3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用					3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用					3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化				ERR換算値=13%	3.8	0.41			3.8
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)					3.8				
集合住宅の評価					3.0				
4 効率的運用					3.0	0.28			3.0
4.1 モニタリング					3.0	0.50			
4.2 運用管理体制					3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			2.8
1 水資源保護					3.4	0.15			3.4
1.1 節水				節水型器具の採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減					2.5	0.63			2.5
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.25			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②		3.0	0.21			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●			1.0	0.21			
2.5 持続可能な森林から産出された木材					-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組		●			3.0	0.25			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.6	0.22			3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					4.0	0.68			
1 消火剤					-	-			
2 発泡剤(断熱材等)				ノンフロンの発泡剤を使用している	5.0	0.50			
3 冷媒					3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.1
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率 97%	3.1	0.33			3.1
2 地域環境への配慮					3.0	0.33			3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.2	0.25			
1 雨水排水負荷低減		●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25			
3 交通負荷抑制		●		適切な量の駐車スペースの確保	5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制					2.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1 騒音		●			3.0	0.33			
2 振動		●			3.0	0.33			
3 悪臭					3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40			
1 風害の抑制					3.0	0.70			
2 砂塵の抑制					3.0	-			
3 日照障害の抑制					3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					4.4	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				光害対策ガイドラインの過半を満たす	5.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30			

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-あいち2011年度追補版Ver.2 (E)

エヌディーテクノ西工場

■評価ソフト:

CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei) v.1.5_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.1	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	3.4	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 エヌティーテクノ西工場

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 自動車部品の製作工場。将来スペースをあらかじめ計画に入れ、今後の生産エリアの増大に備えている。屋上の設備機器まわりは目隠し壁を設置し、周辺住宅地からの視線にも配慮している。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 事務エリア全体に横連窓を配し、明るく快適な執務空間としている。また、F☆☆☆☆の建材を全面に使用するなど、空気の環境にも配慮している。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 事務室の天井高さ3m、一人当たりの面積9㎡以上とし、広く使いやすい執務空間としている。設備面でも、節水型器具の採用、非常用電源の採用など、信頼性のある計画としている。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内の駐車場、構内道路以外は全て緑地としている。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 PAL*の基準値450MJ/㎡・年に対し、261MJ/㎡・年と、建物の熱負荷を大幅に抑えている。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水器具の採用による、水資源確保への配慮。 ノンフロン発泡剤使用による、フロンの使用の回避。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 駐車スペースを敷地内に確保し、敷地外への影響が無いようにしている。また、北側境界に目隠しフェンスを設置し、周辺敷地に対して視覚的悪影響を抑えている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。